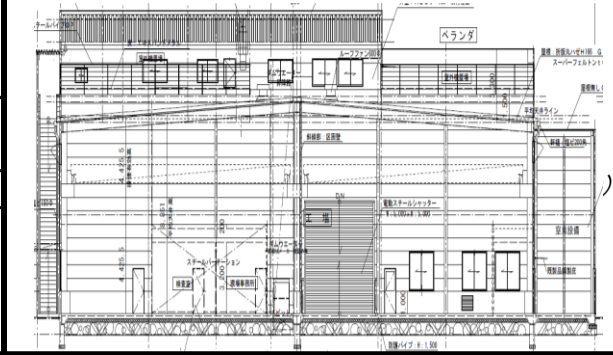


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ウメク株式会社 豊田新工場	階数	地上2階地下0階
建設地	愛知県豊田市歌部西町敷下132、133、134の一部	構造	S造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2022年11月8日
敷地面積	5,062 m ²	作成者	佐野 公彦
建築面積	2,591 m ²	確認日	2022年11月11日
延床面積	3,121 m ²	確認者	佐野 公彦



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	46	85%
③上記+②以外の	46	85%
④上記+	46	85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>15.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)ウメク株式会社 豊田新工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.2	0.15	-	-	-	-	3.2	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-	3.0	0.60	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	0.40	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音	壁・天井にGW断熱材あり	-	4.0	0.20	-	-	-	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35	-	-	-	-	2.6	
1 室温		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-		
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-		
3 光・視環境		3.0	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.1 昼光利用		0.2	2.7	0.25	-	-	-	-	2.7	
1 昼光率		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60	-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
1 昼光制御		0.3	2.0	0.30	-	-	-	-		
3.3 照度		5.0	2.0	1.00	-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.15	-	-	-	-		
4 空気質環境		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-		
4.1 発生源対策		0.2	3.5	0.25	-	-	-	-	3.5	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	0.5	4.0	0.50	-	-	-	-		
4.2 換気		3.0	4.0	1.00	-	-	-	-		
1 換気量		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		0.2	3.0	0.20	-	-	-	-		
2 喫煙の制御		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.6	0.40	-	-	-	-	2.6	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3 パリアフリー計画	独自	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		0.3	2.6	0.30	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)	事務室の天井高2.7m	3.0	4.0	0.33	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3 内装計画		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
1.3 維持管理		0.3	2.0	0.30	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	2.0	0.50	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	2.0	0.50	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31	-	-	-	-	2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	②	0.3	3.0	0.33	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	主用途3種のうち、2種以上Bを使用	-	5.0	0.15	-	-	-	-		
2.4 信頼性		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
1 空調・換気設備	②	0.1	2.6	0.19	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
3 電気設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			工場:3500N/㎡以上	3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.2
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.53	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.79	3.0	3.1	0.46	-	-	-	3.1
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニルクロス	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS下地、OAフロア採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率85%	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		広告照明無し。	-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)ウメク株式会社 豊田新工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:15.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ウメトク株式会社 豊田新工場

計画上の配慮事項	
総合	建築物内部の環境を高めるだけでなく、周辺環境に対する影響を抑えるよう計画している。緑地を最大限に設けるよう配慮。
Q1 室内環境	壁・天井にGW断熱材を採用し吸音に配慮。 化学汚染につきF☆☆☆☆を全面的に採用し環境に配慮した。
Q2 サービス性能	天井高を高くし広さ感に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地に最大限の緑地を設けるよう配慮する。
LR1 エネルギー	エネルギー消費量に配慮する。
LR2 資源・マテリアル	躯体材料以外のリサイクル材にビニルクロスを採用している。
LR3 敷地外環境	広告照明は使用しない。
その他	特になし。